



森の世話人活動支援事務局からのお知らせ

森の世話人活動と SDGs

みなさんも下記のアイコンを目にしたことがあるのではないのでしょうか。2015年に国連が提唱したSDGs（持続可能な開発目標）の17の目標をアイコン化したものです。最近では電車のラッピング等でも目にするのがあり、身近な考えとして、また、企業活動を継続するうえでは無視することができない考えとして急速に広まりつつあります。



森の世話人による活動はどのカテゴリーに該当するのでしょうか？事務局（中の人）が考えてみました。（次の頁（裏面）に続く）

解説：SDGs って？

- ・“Sustainable（持続可能な） Development（開発） Goals（目標）の略称
- ・「将来世代のニーズを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすこと」と定義されます。
- ・世代間の公平という時間軸を持った考え方です。
- ・理念は「誰ひとり取り残さない（No one will be left behind）」です。つまり、世界すべての人に共通する「普遍性」が特徴です。
- ・17のグローバル目標と169のターゲット（達成基準）から構成されます。
- ・取り組まなければならない主体は、国や政府、企業だけでなく、私達一人ひとりです。
- ・私達一人ひとりに、持続可能な開発の理念に整合する生活、意識や価値観の変革を求めています。

事務局では下記の4つの目標が森の世話人活動と関わりがあると考え、関わりが深いと考えられる順番で並べてみました。

アンダーラインは「持続可能な開発のための2030アジェンダ（仮訳）」の言葉をそのまま使用したものの

11 住み続けられるまちづくりを



森の世話人は土砂災害に強い森を目指して活動しており、目的となる森を実現することで、災害による死者や被災者数の大幅な削減に貢献します。

また、活動の成果で明るくなった林内は、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースを提供します。六甲山系グリーンベルト整備事業ではレクリエーションの場の提供という言葉で表しています。

15 陸の豊かさを守ろう



常緑樹の伐採やネザサ刈り等の林内を整理することで、光環境が改善され、生息する生きものの種類が増え、生物多様性につながります。

植樹活動は、劣化した森林から、様々な機能を有する豊かな森林に転換する第一歩です。

13 気候変動に具体的な対策を



気候変動によって、雨の降り方が極端になってきています。森づくりを進めることで、自然災害に対する強靭性（レジリエンス）及び適応能力を強化します。

3 すべての人に健康と福祉を



森づくりは自然の中で体全体を使った活動です。参加者にとって日頃の運動不足の解消や日常生活のリフレッシュにもなり、健康で豊かな生活を提供します。また、整備した場所はレクリエーションの場として、休憩や森林浴、お花見など多様な形で利用され、市民の健康増進に寄与しています。

参考にした資料：外務省「持続可能な開発のための2030アジェンダ（仮訳）」2015

環境省「すべての企業が持続的に発展するために-持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド-」2019